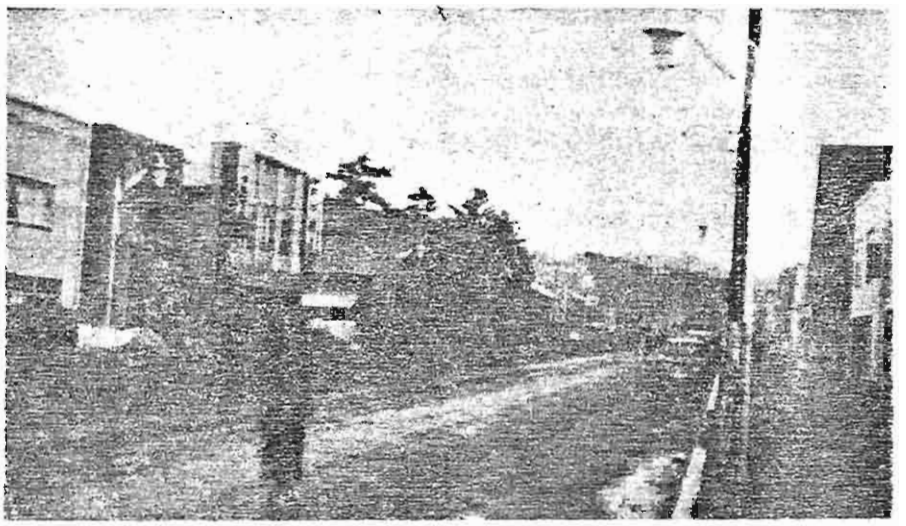
広報いまかね

発行所　今金町役場
編集総務課



丹精こめたこの一俵

今年は春から低温のため稲の成育も遅れがちで秋口の天候に望みをかけましたが、予想以上の悪天候続きで全道的な不作となりました。

それでも出荷時季ともなれば、一年の丹精した米を一時も早く出荷しようと検査場前は出荷のラッシュアワーです。

十一月二十三日現在の米の出荷数は三一、六〇六俵、春の予約数は五一、六六〇俵ですから目標の六二%に達したわけです。

便利になつた　補充選挙人名簿の申請

ことしの七月に公布された公職選挙法の一部改正する法律によつてあらたに「補充選挙人名簿の登録申出制度」が設けられました。

従来、選挙のあるたびに調整されていた補充選挙人名簿の場合は、申請期間が一般に短期間であるためにとかく申請ができなかつたという人が多くあつたと考えられ、いつぽう選挙管理委員会にも、調査など過重な仕事が短期間に集中するという欠陥がありました。

そこで、いままでの登録申請制度のほかに、いつでもその手続きをすませておくことができる「登録申出制度」を設け、可能な限り多くの有権者に投票の機会を与えるという、補充選挙人名簿の目的を生かし、委員会の調査も完全なものにする一石二鳥の効果をもたせようとしたわけです。

したがつて、あらたに満二十才になつた人（新有権者）や、二〇才以上の人であたらしく住所を構えた場合（転入者）は、いつでも補充選挙人名簿登録申し出ができます。もちろん、資格を持つていた人で、基本選挙人名簿のときにもれてしまつた場合も、この制度で救済されることになります。

ただし、この申出にあたつては次に掲げる三つの条件があるので、それにしたがわなければなりません。

第一に、本人が申請しなければなりません。どうしても都合の悪い場合に限つて、同居の親族の方が代つて届け出ることができますし、郵送によることもできます。

第二に、文書でしなければなりません。市町村選挙管理委員会が一定の書式を定めることになつていますから、用紙をもらうと便利でしょう。

第三に、申し出する資格があることを立証することこれは、成人になつたことや、届けでる市町村区域内に住所を構えたことを証明するものであればよい訳ですが、これには住民登録を完全にされることが一番確実な方法といえましょう。かならずしも市町村が発行する証明書でなくともよいことになつています。

こうした手続きを経て受け付けられた申出書は、選挙管理委員会で整理保管されて、選挙が行なわれる際に、あらためて補充選挙人名簿の登録申請をしなくても、申し出したものが、その市町村に住所を移してから三ケ月を経過しているときは、名簿に登載することになります。

なお詳しくは、選挙管理委員会におたずね下さい。

地方自治功労者

地方自治に三十年間
今金町長知事表彰受賞



今金町長安部喜雄氏は、地方自治功労者として、去る十月二十四日札幌グランドホテルで道知事表彰を受けました。

町内各位には、今さら申し上げるまでもなく御承知のことと存じますが、

安部町長は、大正六年に戸井村役場吏員としてスタートしその後大正八年今金町（当時利別村と称す）に転入昭和七年四月に助役に就任昭和八年には村長に就任すると云ったスピード出世ぶりでその活躍も目を見はる様な活動ぶりで村政に尽力されました。

当時本町は新興町村でもあり、内政外交に幾多の困難にぶつかりましたが、今日でも見られる仕事への情熱と誠意をもって解決し今日に至る今金町の基盤作りに努力したのであります。

以後昭和十九年退職、終戦後も公職追放となったが昭和三十年五月、今金町長としてカムバックして現在に至り三期の町長を務めて今回の表彰となった訳であります。今後も誠意と努力をたてまえとして、明るい町づくりのため町民各位の御期待にこたえたいとその抱負を語っております。

今金町が自衛隊協力功労者に

去る十一月一日は自衛隊記念日でありましたが、札幌に駐とんする第十一師団は記念式典を盛大に挙行し自衛隊創立十四周年を市民と共に分ち合いました。

この式典に於て、今金町は自衛隊協力功労者として北部方面総監、宮崎陸将から、感謝状と記念品が贈られました。

今金町は、自衛隊協力会同父兄会を通じ自衛隊と親しくおつきあいをし、町内からも多数の子弟が自衛隊に入隊しておりますので、入隊者の激励に又自衛隊の任務に対する理解を持つためささやかなる協力に対して、今回の表彰を受けました。今後出来うる限りの支援と協力を町民各位に対してお願いいたしまして受彰のお知らせをいたします。

〈明るい町づくりに〉
政治に関心をもち
公明選挙を推進しよう

私たちの家庭生活は、より合理的に改善されて、はじめて楽しくおくることができるのと同様に、住みよい豊かな町や村の建設も、正しくくりつばに行なわれる政治によってのみ実現されます。

したがって、私たちは、つねに政治に対する関心を持っていることが必要であると同時に政治は、私たちが選ぶ代表によって行なわれるということを忘れてはなりません。ここに選挙に関する重要な意義があります

しかし、今日までの選挙の実態をみますと、あながち公正な選挙が行なわれたとはいえない点があります

情実や、義理人情にとらわれて自分の正しい判断にもとずいた選挙が行なわれなかったり、勝つためには手段を選ばないといった多くの、みにくい選挙行為が起きたりしている現状では公明選挙はおろか、町や村をよくすることさえも不可能であると思います。

公明選挙運動は、このような不純な選挙の姿をなくして、明るく正しい選挙を実現するために始められた運動です。

私たちはまず政治についての常識を少しでも高めるため「話しあい」や政治学習などの活動に積極的に参加し、身近な問題をとりあげながら政治や選挙に関するを素養を身につけるとともに、私たちひとりひとりが選挙の浄化につとめるよう相互に協力しあうことがいちばん必要なことであると思います。

このことが、明るく豊かな町や村を築きあげる根本的な要素ともなるのです。

十一月は公明選挙強調期間ですが、日常に於て忘れることなく意識して、公明選挙実現のため自ら進んで公明選挙運動に参加しましょう。

○○○○○○○○○○○○
歳末たすけあい運動
めぐまれない人々に
あたたかい手を

ことしも、十二月一日から歳末たすけあい運動がはじまります。

これは五百万道民が、そろって明るいお正月を迎えられるよう、生活に困っている人や、災害を受けた人などに、あたたかい手を差しのべようとするものです

助けあいは、市町村、報道機関などの全面的な協力を得て、義援金品の募集をするほか、施設に収容されている人、病気療養の人の慰問激励、さらには健康相談や無料診療など多くの方法で各方面に亘って行なわれることになっています。

昭和三十八年度には全道で約四千六百万円もの義援金のほかに、数多くの善意が寄せられて、めぐまれない人々に配分されて非常に喜ばれました。

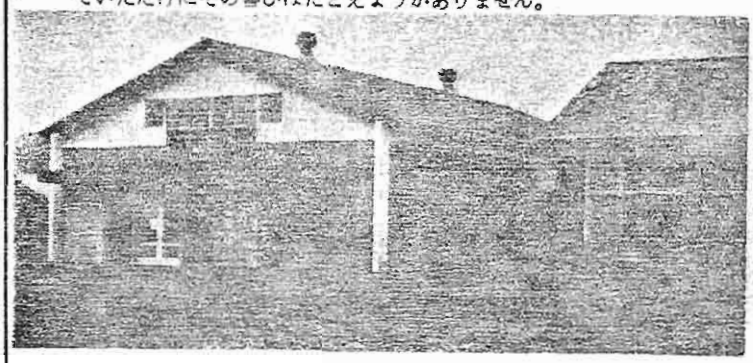
ことしも昨年を上回る目標が達成され、手厚い援助ができますよう、道民ひとりひとりが、この運動の趣旨を理解し協力されることを切望いたします。



待望の運動場完成

◆部落民こぞつて祝賀行事◆自衛隊音楽隊も協力◆

花石小学校は明治40年に創立された本町でも歴史の古い学校で屋体がありませんでしたが、本年度に於て総坪数94.5坪の近代的な運動場が建設されました。児童生徒はもとより部落民も待望していただけにその喜びはたとえようがありません。



掛けずに泣くより
加入で笑顔

毎年十一月は、国民年金制度の思想を普及推進月間となつております。

国民年金制度も発足以来五年目を迎えますので、道ではこの機会に積極的なPRを行ない、制度の内容をさらに周知徹底させるためいろいろの関連事業を行なうことになつています。

今金町では、豊田地区が国民年金推進モデル地区になつていますからこの地区を基地本町の国民年金思想の普及を計るため計画中であります。

国民年金は、農業、漁業及び自営業などに従事し、他の年金制度に加入していない人のための制度で二十才から五十九才までの人は必ず加入しなければなりません。

これは毎月百円、三十五才以上の人は百五十円の保険料を納めることにより、今をとつて仇けなくなつたり、思わぬ事故に会つたりあるいは一家の働き手である夫と死別したりしたときに、それぞれ老令障害、母子などの年金をうけて生活のよりどころとするもので国でも毎月納められる保険料の半額分を負担して加入者とともに万一に備えるものです。

この制度に加入していなかつたために年金をもらうことができず悲しい思いをしているお年寄りや夫に死なれ残された子どもをかかえ途方にくれているお母さんがたくさんいます。せつかくこのような制度があるのですから、また加入していない方は必ず加入手続を済ませてください。手続は役場の窓口で取扱つていますから、ご相談下さい。



いまからでもおはいりなさい
国民年金普及推進月間（11.1～11.30）

北のさん一家



人生往来

一日＝建設省加藤査定官災害土木事業査定のため
八日＝道管理係天上技師檜山支庁耕地係寒地計画説明のため
九日＝檜山支庁会計課長道財産第一係等財政会計事務指導説明のため
十二日＝道建築課鈴木技師庁舎危険度調査のため
十三日＝函館法務局総務課長管内視察のため
十四日＝参議員議員伊川伊平氏管内視察のため
十五日＝道地質調査所加美技術課長管内地質調査視察のため
十六日＝自衛隊函館駐とん地桜井業務隊長分駐所視察のため
十七日＝農林省農地局黒田班長外一名総合かんばい事業調査のため
二七日＝檜山支庁長外五名管内開発状況視察のため
二八日＝函館法務局登記課長補佐登記事務監査並に庁舎営繕調査のため
三十日＝道開発庁総務管理官外十名管内開発状況進捗状況視察のため
三一日＝農林省山下、白石技官道堰主事等農業構造改善事業指導のため

秋の交通安全旬間
応募作品入選集

明るい町を
交通事故から守りましょう



小学校　第二位
今金小学校五年
松浦小瑞

「交通安全」

つゆにぬれたコスモスの花がゆれる道をいくと、黄色い旗をもった六年生の人が、かどかどに立っています。

その人たちは、わたくしたちが朝学校に行くとき、じこに会わないように見まもっていてくれるのです。

トラックがきてもとびだしたりしないように旗をふってくれます。トラックのうんてんしゅは、窓からにっこりわらって道をゆっくりと走ってくれます。

坂をのぼると学校の二階のまどから交通安全と書いた大きな旗がさがっていて「きょうも事故をおこさないようにね」とよびかけているようです。

町の中では黄色に交通安全と書いたたすきをかけたお母さんたちが、黄色い羽根をもって交通事故にあわないように、わたしのむねに羽根をつけてくれます。

おまつりのときは、おまわりさんが道路のまんなかで交通せいりをしたり、はねをもってつけてくれたりパトロールをしていました。

こうして、みんなが交通事故をおこさないように注意していますので、わたくしたちの学校ではまだ一度も事故をおこしたことがありません。

でもけっしてゆだんはできません。いつどんな時にあくまがとびでてくるかもわかりません。「ろう下は右側を歩きましょう」と決っているのに右も左もおかまいなく走り廻る人がまだまだ大ぜいいるからです。週番が「走るんじゃない」といってもその時は、ちょっと止ってまたすぐ走り出してしまいます。そんな人は、人のいない時は一旦停止もしないし、かつて線路をわたって歩いたりするような気がしてなりませんだれかが死んだりけがをしたりすると、みんな青くなって注意しようと思いますでもまた何日かたつと忘れてしまって、そんなことをくり返すのです。

道路が良くなって、車がどんどんふえて便利になればなるほど交通事故が心配です。

今金町にも、ほそう道路ができてお祝がありました新らしい道路には、横だん歩道ができました、ワンで右を見てツーで左を見てスリーでもう一度たしかめてわたるのです。「ワン・ツー・スリー」わたしたちは全校朝会の時、友善先生からこのお話しを聞いてみんなでワン、ツー、スリー、とやってみました。スースーと気持よく走る新らしい道路です。わたる時にはかならずこのことをまもって決して事故のないように気をつけなければなりません

新らしい道、ひらけゆく今金の町は、交通事故のゼロをみんなで約束して、はじめてできるのではないでしょうか。



中学校　第二位
今金中学校二年
赤川洋子

「交通事故に思う」

今日もニュースで交通事故の事を聞かされた。

新聞にも大きな見出しで数名が死んだということが重々しく載せてあった。

交通事故、交通事故と年々増加している現在であるが、なぜこうも非常に多くの人々を死なせたり、けがをさせたりしなければならないのだろうか。

十年前の交通事故での死傷者は約七万九千人程であつたが、五、六年前になると十五万人にも及んだ。そして、東京が最も多く一日最低四、五人は死んでいるという私達人間にとつて、とても恐ろしい交通事故の世の中である。

私の家の親せき関係で交通事故でけがをした人がいないのを幸いに思つているが交通事故で死んだ人の家族を見ていると同情心がわき、それと同時に事故に対する怒りがこみ上げてくるそして少しでも早く交通事故のない国をと思つているが、事故は一向に減つてはくれず、むしろ増える一方である。

日本では、どんどん文化が発達し、それに伴つて交通機関が発達してきている事実一日に数百台の車が増加し、この狭い国土を風を切つて走つている。美しい景色の高速道路を風を切り、スピードを出して走つているのを思うと、とても素晴しく思い心をひかれる。しかしその影では絶え間ない交通事故がおき、一人、二人又一人と次々に死傷者がでるのは本当に残念に思う。せつかく素晴しい車のことを考えていても交通事故という暗く、重くそして悲しい黒い雲に包まれてしまう。

青空に入道雲がかかつてしまう気持は誰でも同じだと思う。心から交通事故のない国や世界にしたいと思わずにはいられず、その実現する日を待ちこがれているだろう。

しかし待ちこがれているだけでは交通事故のない世界にできないのである。私達自身が積極的になつて事故をなくさないと、事故のない世界は私達が死ぬまでにも永遠に来ないと思う。

確かに自動車が増えると交通事故がふえるのは事実であるが、自動車が増えるから交通事故がふえるということは成り立たないと思う。車がふえても、私達が交通規則を守り、細心の注意を払つていれば、こんな世の中は消えるだろう。

子供に多い交通事故から子供を救うためにも私は姉として妹達を安全な道に導きたい。親の方達にも、子供を事故から守りましょうと叫びたい。私は、みんな団結し、この美しい世界の土台となつている土をいつも感心している。感心しているだけでなく、本当にこのようになりたいとも思つている。

この土のようにみんな協力し合い、平和な生活の一歩として交通事故のない世界にすることが、最大の喜びとなるだろう。

私達の住んでいる町、道日本そして世界へと、小さな芽から大きな実がなり、価値ある收穫を得るように根気よく、交通事故防止に努めなければならない。これが私達に与えられた任務でしょう。

本当に事故のない日がないということばが消えうせてしまいますようにと私はいつも神様にお願いしていたい。